

海外友好交流都市ヴリーツェン市で桜植樹式

～市民団体の皆さんと市長がドイツを訪問～

第二次世界大戦後のドイツで、伝染病患者の治療に尽力し、八王子市とドイツ・ヴリーツェン市との友好交流のきっかけとなった、本市出身の医師・故肥沼信次博士。

「日本の桜を見せたい」と言い残して、亡くなられた肥沼博士の想いを叶えるべく、日本から約360万円の寄付金が寄せられ、その資金を基に桜の木が植樹されました。

6月3日にヴリーツェン市で植樹式が開催され、市長を始めとした日本からの訪問団も参加しました。

主催者のヴリーツェン市のイルム市長からは、「日本の皆様のご好意により、多くの寄付が集まり、桜を植樹することができました。ヴリーツェン市を代表して感謝申し上げます。」とのお言葉をいただきました。

それに対して、市長からは「この桜が大きく育ち、ヴリーツェン市の皆様にとって憩いの場所になるとともに、今後も両市の友好交流が続くことを期待します。」とコメントしました。

- | | |
|---------|--|
| 1 式典日程 | 6月3日（土）11時～ |
| 2 場 所 | ドイツ・ヴリーツェン市 |
| 3 内 容 | 桜植樹式、銘板プレートの除幕式 |
| 4 訪 問 団 | （行政）石森市長、吉本議員（前議長）ほか
（市民）「Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会」代表 塚本回子氏、
八王子観光 PR 特使 富永裕輔氏 ほか |



▲銘板プレートの除幕式の様子
（左から、吉本議員、石森市長、イルム市長）



▲肥沼博士の墓前の様子

※ 現地での写真データを提供できますので、必要な場合はご連絡下さい。

<問い合わせ>

市民活動推進部多文化共生推進課長 中野目 電話042-620-7437